

「本町泊別地区の道立広域公園構想」は、北海道に対して町の考え方を示している中、昨年3月、北海道における緑地整備・緑化推進のための新たな基本方針が策定されました。その取組状況を注視し、早期整備実現に向け関係機関と連携しながら、釧路地域の活性化に資するものとなるよう努めます。

- ①道営草地整備事業の推進
- ②畜産クラスター事業の推進
- ③家畜防疫対策事業への支援
- ④担い手対策の推進
- ⑤中山間地域等直接支払交付金制度による事業の推進
- ⑥多面的機能支払交付金制度による事業の推進
- ⑦有用植物の調査・研究への支援
- ⑧農林業の連携による地域資源を活用した循環型森づくりの推進
- ⑨ヤナギを活用した新たな産業、雇用の創出に向けた取組の推進
- ⑩エゾシカ有害捕獲および有効活用の推進
- ⑪ヒグマ被害防止対策の推進
- ⑫有害鳥獣捕獲の担い手育成に対する支援
- ⑬町有林整備事業の計画的な推進
- ⑭民有林振興対策の推進
- ⑮漁業資源の増養殖事業の推進
- ⑯漁業後継者の育成に対する支援

- ⑰漁業操業用機器の整備・更新に対する支援
- ⑱水産生産基盤整備事業の推進
- ⑲新型コロナウイルス感染症被害に向けた経済対策の推進
- ⑳新産業創造等促進事業の推進
- ㉑しらぬか物産センター恋問館の改築の検討
- ㉒しらぬか魅力発信事業の推進
- ㉓青年就業者海外等研修事業の実施

まことに必要な情報を、迅速かつ適切に分かりやすく提供します。

地方分権の推進については、釧路町村会の「地域づくり広域プロジェクト推進会議」など、広域連携に向けた取り組みを推進します。

テージを目指す「新北海道スタイル」の構築が重要となっています。

ライフスタイル、ビジネススタイルなどを大胆に変革することが求められる時代にあって、私たち

は、この事態を契機としてまちの在り方を問われ、そして試されているものと確信しています。

まちを興し発展させることを一心に願い、過酷な状況下で度重なる苦難を乗り越えてこられた先人たちがそうであったように、次代を担っていく子や孫へ「ふるさと白糠」をしっかりと引き継いでいくために、今を生きる私たちが一丸となつてこの難局を開拓し、その先にある未来を見据えながら、これまで皆さまとともに取り組んできた「新たなまちづくり」を着実に前へ進めていきたいと強く思っています。

6 みんなで歩む 地域づくり

協働のまちづくりを推進し、地域社会の持続的な発展を図るために、情報と共にしながら活動の調和を図つていくことが必要です。自立する自治体経営を推進するため「第8次白糠町総合計画」を基本とし、さまざまな観点から事務事業の見直しを行い、計画的かつ効率的な行財政運営に努めます。また、広報紙やホームページ、フェイスブックなどのSNSを活用し、各種施策をはじめとしたさ

- ①「第8次白糠町総合計画」の進行管理
- ②「太陽のてがみ」による市民と行政の協働のまちづくりの推進
- ③町広報やホームページ、SNSによるまちづくり情報提供の充実
- ④健全な行財政運営の基盤の構築

「見えざる敵」とも言われる新型コロナウイルスは、今もなお、確実な有効手段がないまま、感染症への対応は長期化の様相を呈しています。

私は、新たな「令和の時代」をより確かな歩みで進んでいくために、今一度、足元をしっかりと見つめながら、まちづくりの先頭に立つて、全力を傾注していきます。

■町政執行方針の全文は、役場企画財政課（2階・12番窓口）または庶務支所、町のホームページで見ることができます。